旧第３倉庫、北運河エリアの活性化で文化観光都市へ

NPO法人 OTARU CREATIVE PLUS

【持続可能な文化観光都市へ向けて】

『文化観光』とは、地域独自の文化、歴史、伝統、芸術などを体験してもらい、地域文化への深い理解を促すことで、小樽が抱える通過型観光の課題や市民不在の観光を解決し、質の高いサービス提供による客単価向上も期待でき、文化への再投資も行える、目指すべき持続可能な観光のあり方です。

小樽には文化観光資源がまだまだ眠っており、特に変化の最中にある港エリア（北運河エリア含む）には昔の建物や痕跡が数多く残っており、これらをコンテンツとして形にしていくには、創造性＝クリエイティビティが重要です。新しいアイデアや概念を生み出し、小樽独自の価値を高いレベルで実装していかなければなりません。当法人では、旧第３倉庫（図１）および北運河エリアを通じ、これらの実現を目指し活動を行っています。

図１　旧第３倉庫

【NPO法人 OTARU CREATIVE PLUS（ＯＣ+）】

OC+は2022年に設立された組織であり、小樽に眠る資源を繋（つな）ぎ、混ぜ合わせながら、この町にしかない価値を共創から生み出し、「文化と経済の両輪で未来へ進むまちづくり」をクリエイティブに推進する組織です。特に、かつての港町としての「市外からの価値を積極的に市内に落とし込む」形を重視しています。また、旧第３倉庫の解体を防ぐため、保全・活用を目指して市内民間組織が連携し結成された、第３倉庫活用ミーティング（2021年１月結成）の後継組織でもあります。

若手を含む経験豊富な小樽関係者であるプロデューサー／ディレクター／クリエイターを中心に理事を迎え、下記テーマを中心に活動を行っています。

1. 地域コミュニティの活性化
2. 文化・芸術の推進と経済活性化
3. 旧第３倉庫利活用プロジェクト

それぞれのテーマにまつわる活動を紹介します。

１．地域コミュニティの活性化

「小樽を愛する人を全力応援」「全部自分たち事」をテーマにコミュニティの活性化をはかる参加型のブレストイベント『まだ会』を、2023年７月より奇数月第３木曜日を恒例として開催しています（図２）。

本来は「おたるMIRAI共創カイギ」という名称でしたが、簡略化した名前がなかなか決まらないことから「名前はまだまだない会議」＝「まだ会」。毎回３名、市内および近郊で活動する出演者を呼び、彼らの活動を共有してもらった後、抱える課題などを発表してもらい、会場全体でブレストを行う。様々なアイデアが飛び交います。

出演者のほとんどが、社会課題を前提とする活動を行い、まちづくりに直結していることもこの会の大きな特徴です。ルールはネガティブな発言をしないこと、相手を否定しないこと。また、偶数月第３木曜日には運営会議を行っており、熱い議論が繰り返されています。

2024年５月からは毎月第４火曜日19時15分スタートで、FMおたると連携した「まだラジ！」を放送開始。まだ会の出演者たちに登場してもらいながら、コミュニティの輪を広げています。

２．文化・芸術の推進と経済活性化

これらは文化観光を推進することで実現されます。OC+では、小樽の歴史的建造物や文化遺産を活用したアートイベントや展示会、マルシェなどを開催することで、地域文化の発展を支援しています。

図２　参加型のブレストイベント『まだ会』

今後は特に、歴史的建造物×メディアアートの推進や、アーティストインレジデンス、食を通じた文化体験であるガストロノミーレストランなど、文化的コンテンツを活用し、高付加価値化を狙いたいと考えています。

3．旧第３倉庫利活用プロジェクト

OC+の最優先ミッションは旧第３倉庫の利活用で、今年度内にはその計画を完成させ、建物の特徴や潜在性を活かしながら計画作りを進めていきます。昨年度からは、消防設備が再設置され倉庫として建物が蘇（よみがえ）ったことで、社会実験イベントの開催が可能になっています。

バルコニーでチェアリングを楽しみながら写真展示も楽しめるイベントや、グランドオープニングイベントとしてのマルシェ（図３）など、それぞれ市内の団体と共創する形でイベントを行いつつ、建物の将来ニーズを探りながらも多くの人々が訪れるきっかけを作りました。「自分たち事」を形にする「自分たち場所」として旧第３倉庫を活かしたい。

図３　小樽デパートメントとの共創マルシェ

【旧第３倉庫竣工100周年記念事業】

『KITAUNGA DISTRICT－第３倉庫と次の100年へ』と題し、記念の社会実験イベントを2024年10月12日（土）～14日（月・祝）に開催しました。

旧第３倉庫と運河公園でイベントを同時開催し、かつ両者を運河クルーズ特別便で繋ぎ、北運河全体を包括する。再開発の進む周辺エリアにおいての旧第３倉庫の役割は、北運河エリアのゲートとして小樽の魅力向上に貢献することであります。

旧第３倉庫では、「食×アート」をテーマとし、特別なライトアップとメディアアートや、缶詰を使ったワークショップ、バルコニーも使ったガストロノミーレストラン、さらには北運河散策のお供となるドリンクや焼き菓子などのテイクアウト店舗を昨年のマルシェスペースに並べました（詳細はOC+のHPにて）。

運河公園側には、心地良い空間の中にチェアリングスポットが用意され、キッチンカーを並べ、休憩棟内ではマルシェを開催。初日と二日目は、DJブースを設け、夜は旧日本郵船への映像投影実験を行いました（図４）。

図４　旧日本郵船への映像投影実験

最終日には、北海製罐（かん）株式会社の事務所棟講堂にてシンポジウムを開催しました。天王洲（てんのうず）アイルをアート×ビジネスでおしゃれなエリアに生まれ変わらせた寺田倉庫の元CEO中野善壽（よしひさ）氏を招き、事例紹介をしていただきながら、旧第３倉庫の今後を含めた議論を展開しました。

10月末には小樽市主催の記念フォーラムも開催され、一連の活動で集めたアンケートを通じて、当NPOとしての利活用計画に役立てていきます。

【これからに向けて】

文化観光を軸にこれからを考える際、新しいことに挑戦していく、あるいは新しいことに挑戦している人を後押しする、創造･共創を促す環境が小樽には必要です。

アーティスト、デザイナー、エンジニアなどのクリエイターや、その他様々な士業で構成される専門性の高い人々が中心となった集まりが必要です。加えて、市民も「小樽のプロ」として加え、まずはそのコミュニティを作ることが重要なミッションですが、「まだ会」は、その下地作りでもあります。

コミュニティには拠点となる場が必要だと考えると、やはり旧第３倉庫がそれに相応しく、建物としての存在感、そして多くの人々が注目する歴史的建造物は市内に他ありません。先人達が残した有形無形の様々な存在に価値を与え、今後の文化観光を牽引していく場になっていけば小樽の未来は明るいと考えています。OC+設立時に掲げたコピー「第３創庫とMIRAIへピピピッ」の意味はそこにあります。

OTARU CREATIVE +PLUS
第3創庫とMIRAIへピピピッ

http://www.otarucreativeplus.org/